

2021年3月19日

大阪府知事 吉村洋文様  
教育長 酒井隆行様

大阪府立高等学校教職員組合  
執行委員長 志摩毅  
養護教員部長 田辺真己

## コロナ禍のもとでも、生徒のいのち・健康を守れる学校を！ 教職員の抜本的増員、養護教諭複数配置の拡大を求めます

新型コロナウイルス感染症の流行は、発生以来一年を経過してなお、終息が見通せない状況が続いています。

学校現場では、長期におよんだ臨時休業と、学校再開後の行事日程の変更や長期休業の短縮、土曜授業の実施、常時マスク着用を求められ、会話やふれあいを制限される学校生活によって、子どもたちのストレスが高まっています。そうした中、全国の児童生徒の自殺は前年を140人上回る過去最多の479人となり、とりわけ高校の女子では前年度の二倍の138人に達する深刻な状況となっています。一方、日常的な消毒作業、マスクをしながらの授業、オンライン授業、土曜授業や相次ぐ日程変更など、新たな負担が増大する中、教職員の疲弊も深刻です。

コロナ禍の今だからこそ、学校が子どもたちの「安全・安心な居場所」としての役割をしっかりと果たし、一人ひとりの生徒の成長・発達を保障することが求められています。そのためには、教職員の抜本的増員と、「20人学級」に向けた少人数学級の実施が必要です。国が40年ぶりに基準を変え、小学校の35人学級に踏み出したのもそうした世論を反映したものです。

ところが、大阪府は、二月府議会に提出した来年度予算案で、そうした流れに逆行し、府立高校の教職員定数を約300人も減らそうとしています。これによって教員加配は62名減、養護教諭の複数配置は2020年度の66校から47校へ、19校も減となります。学校での感染・休校が繰り返される中、長時間・過密労働で学校を支えている教職員の数を減らすことは、学校の安心・安全を損なうものです。とりわけ、学校の感染防止と生徒の心のケアの中心を担って奮闘している養護教諭を、コロナ禍のさなかに複数から単数に戻すなどは、生徒のいのちと健康を軽視するものです。

私たちは、コロナ禍のもとでも生徒のいのち・健康をしっかりと守れる学校とするため、下記について強く求めます。

### 記

1. 府立高校の教職員を抜本的に増員すること。
2. 養護教諭の配置にあたっては、複数配置を維持、拡大すること。